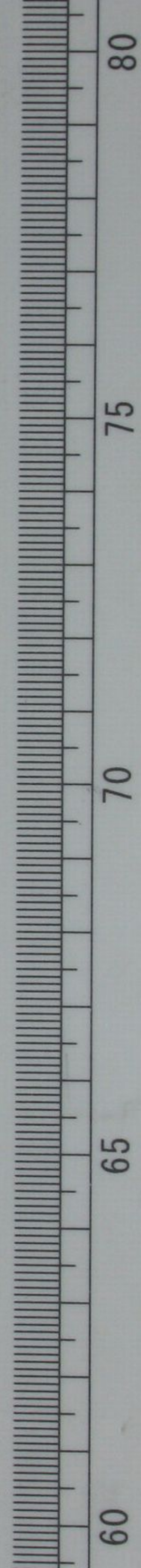




鎌倉管隸
府領役考
應仁武鑑

續篇
二

伊地知文庫
文庫20
368
4



文庫 20
368
9

鎌倉侍所別當一丁

千葉介實胤二丁

千葉馬加陸奥守孝胤五丁

關東八大將 六丁

小山下野守成長九丁

結城左衛門佐氏廣土丁

白川結城彈正少弼政朝 十三丁

中沼又四郎宗常 十五丁

那須越後守資持 十六丁

宇都宮右馬頭正綱 十八丁

小田讚岐守知久 廿丁

常陸大掾清幹 廿一丁

佐竹右京大夫義人 廿二丁

鎌倉評定衆 廿三丁

那波刑部大輔宗顯 廿八丁

善 民部少輔倫乘 卅丁

二階堂左衛門尉政行 卅丁

佐々木近江守信久 卅丁

京都將軍家所領役考卷第10



花咲屋新之助

栗原孫く丞信元著

侍所別當

鎌倉御所くまがたごしよみくろちハ乃まけたい千葉介代々ちハ乃まけたいあま

小補こほ京きやうみくろみくろ一色いつしき山名やまな京極きやうごく赤松あかまつの侍所まうらいつしよと八中門ちやうちゅうもん

乃廊のらう乃上のじやうを云いひ小右記せうごき小寛和二年三月廿二日侍所せうごしよ石

塔たう云々とあまの武家ぶけ小乃せう侍所まうらいつしよ乃名なあまあまあらは

小右記せうごきハ小野宮せのみや右大臣みぎのちじん職原抄しやくげんせう小関せうかん白家しろけ小藏人せうざうじん侍

所しよあり又源平盛衰記げんへいせいざい小甲斐せうかい乃一条のいちじやうの館たての侍所まうらいつしよをあ奉

たまの田舎いなか乃武士ぶしの家いへ小せう秋あきせ里さと頼朝よりとも卿きやう乃館たての結むす

構を説條ふ内侍七間ふ十六間國々の大名座をく
 外侍ふハ若侍其數來會せりと云重衡對外侍内侍共
 廿六間外侍ふハ諸國乃大名内侍ふハ一姓乃源氏と
 云康定左乃一座右乃一座ハ三浦介中ハ梶
 原と侍の座を定らむ小坪かとあふを合せ考る知
 願又和因義盛侍の別當を望申次とさふ上總介
 忠清ハハ國の侍乃奉り去る諸士子奔走せらむ
 を羨めふふく別當乃頭要たふと推知さへ因云ハ
 侍乃奉行ハ續日本紀了所謂坂東八國兵士
 乃勾當ふく左馬頭義朝乃綱補世也

千葉

桓武平氏

人王五十七代
桓武天皇第五皇子

葛原親王三男

高見王 無官位

良文 村岡五郎 為將門子

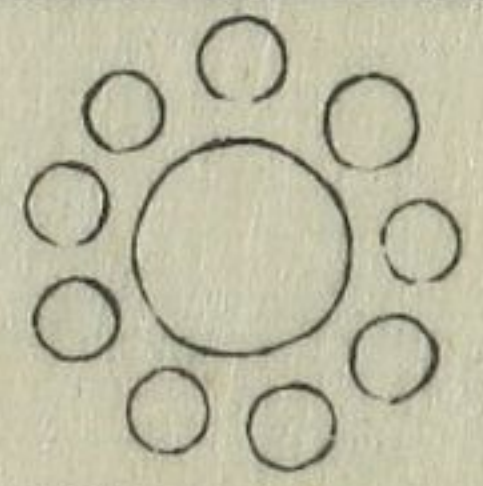
忠通 村岡小五郎 三浦鎌倉祖

忠頼 村岡二郎

忠常 武藏押領使 上總介

常将 下總介 小三郎 居下總千葉号千葉介

常永 下總介 為義家朝臣鳥帽子子



千葉介實胤

室上权右京亮憲忠妹

美濃国可兒大寺

嘉吉二年 月 生
亨徳四年九月 家督十四歳
年月 下總介正六位下

下總 市川庄千二百七十餘町 武藏

葛西千二百町 石濱七百町以上

二國田之千二百七十餘町 氏獲稻

百六十之萬又子東 以直錢九万八

八万千七百八十不余今量七万九
千二百七十八不六斗九升七合又

常兼 下總介

常重 下總介

常胤 千葉介
建仁元三廿四卒四十

胤正 千葉介
建仁三十七卒

成胤 千葉介
建保六十四卒

胤嗣 千葉介
安貞三五廿八卒

時胤 千葉介
仁治三廿七卒

頼胤 千葉介
文永十六廿六卒

宗胤 千葉介
官方九列千葉祖

胤宗 千葉介
將軍方下總千葉祖

貞胤 千葉介
觀應二正朔卒

氏胤 千葉介
貞治二九十三卒

滿胤 千葉介
應永廿二六八卒

兼胤 千葉介
永享二六十七卒

康胤 馬加陸與守

胤直 千葉介
享徳四八十五自殺

胤將 千葉新介

宜胤 千葉小三郎
享徳四八十三自殺

白ふ 當る

米三万七千六百八十七石二斗八

升一合二勺餘 一斗八万九千四百

一合 千葉家領

米三千九百六十二石九斗六升

合餘下總武藏守護職料

鎌倉あまか 甘繩天狗堂東千葉屋志ふ

長谷小路より佐介谷へ入る乃右の
み乃出ききせり云也常胤以来乃
屋敷と云たり一實胤の頃ハ云々
住せしハありされしハ云々記
て古を存せ他ハ又

辰城 衣藏豊島郡石濱 鎌倉より 十三里

家老 木内宮内少輔胤信

圓城寺因幡守宗官

栗飯原右衛門志勝睦

千葉家乃元祖村岡又郎良久平新

皇將門乃猶子と云々千葉印幡植

生等乃新頼田を譲る其後將門謀

叛く相馬乃一跡断絶と云共良

文乃讓らるる千葉の家ハ其儘了

鎌倉二代監賣高田

賢胤 千葉中務大輔 與兄同戰死

某 千葉九郎

實胤 千葉介 後遺世於 美濃国卒

自胤 千葉中務少輔

盛胤 千葉中務少輔

良胤 千葉小二郎 松月院

守胤 千葉二郎

惟胤 千葉二郎

相續く常胤に至ると代々下総介
に任じ或は上総介或は押領使鎮守
府將軍等を兼たり常胤録倉本幕
下草創乃功長とて武射市原乃
諸莊を増かえ又七代相傳くと胤
宗及以等持院將軍尊氏家不隨
以又市川葛西不濱乃莊を恩補せ
らば總て七子六百廿餘町乃地頭
大里より亨徳に年成氏朝臣京都

乃御敵と成るは志らば関東の諸將士二川に分ち一時
千葉介胤直その弟中務大輔賢胤を外戚の親了付と
板布馬助憲顯を一味に京都方と成る千葉の城に楯籠
不然る胤直乃而父子葉馬加陸奥も康胤ハ千葉大介
満胤乃一男か也と由母賤けは打込らむと生つる
成氏朝臣乃御方不系く旗を揚るふよ里胤直子葉を出
く多胡志摩乃兩城不入 良文以来十九代五百餘年相續
乃千葉を出して慨歎了たを以
康胤出ふ兩城へ押寄むを同中取く攻け分ると胤直
父子遂に打負亨徳四年八月十二日胤直 胤直多胡不
嫡子

自害一亂直ハ八月十五日志摩乃東覺院入る自害と
 千葉家乃正嫡ありて於て滅亡と上扱を是を閉る亂並
 乃弟中務大輔賢胤乃子實胤自胤二人を立市川城入
 楯籠けしハ京都より東下登る常縁下向て是を助
 かと成氏朝臣乃軍強く實胤自胤子葉へ入るを約
 成氏朝臣乃命ふより子葉入る満胤乃長子と云を
 以て總領職とあふ是子葉乃分ちて二流とあふ由
 其あり其存亡を長家紀罔る述也ハあふいと云

千葉 桓武平氏

嘉祥三年七月十八日
 康正二年十二月 家督

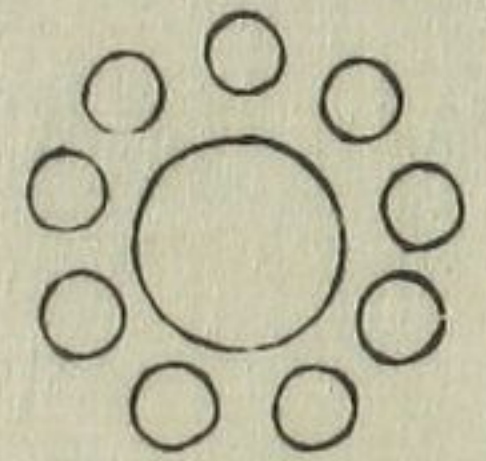
桓武天皇七代
 千葉介常胤七代
 満胤 千葉介

康胤 千葉馬加陸奥守

母家女 永和三年生
 應永廿二年父満胤卒時四十九
 歳也總領兼胤明德三年生而
 卅四歳也胤胤母上叔朝宗妹
 而兼胤亦為上叔氏憲婿故
 為總領然胤胤也故成氏
 朝臣為千葉家督
 康正二年十月朔日討死干上
 総八幡八十歳法相常應

孝胤 千葉馬加陸奥守

永正三十九卒常輝眼阿



千葉馬加陸奥守孝胤

下総 千葉印幡植生等郡田二千
 百又十町 上総 武射市原郡田千
 二百餘町以上二國田口千二百又十
 餘町以獲稻二百七十萬又千東
 以直錢十三万又百貫又氏米十萬
 八千七百又十不今量十萬又千に

輔胤

岩橋但馬守
應永廿七年生延徳四
于五卒七十三實康持兄母
家女故為二男

康持

岩橋小三郎
母同上永享六年 康正
二六十二卒三六覺與向

勝胤

千葉介
享祿五五卒六十三

百六十二石口
八升七合八勺

米又万九千石六斗八升一合八勺

大撮余 石斗入十二万八千二 千葉
百二十六俵二斗余

馬加家領

米八千二百七十二石一斗二升二合

余下總上總守護職料

辰城 下總千葉郡馬加

家老 原越後守胤房

原胤後守胤茂

關東八大將

又八屋取

關東八大將と云々下野小

小山結城 中沼守都宮那須常陸小田大掾佐竹等

累代有勢乃八家お里蓋下野の小山氏を其祖藤原豊

澤母方乃祖父下野史生鳥取業後許生長業

俊り子豊俊り婿とかり下野大掾子補せら教豊澤小

男子三人お里村雄秋村嗣村と云皆弓馬子達りお里

志りの軍團ふ配り大毅子補と大毅を押領村雄り嫡

子を秀郷と云父ふ毅り下野押領使とかり後ふ下野

武藏お里任り鎮守府將軍ふ補以て城國守治郡回京

郷久住しけむの世久田原の後と称しけむ氏古

系圖み 秀郷乃又男子常父一も子のをうけ小叢下野押領使とあり

左衛門尉さゑもん補し鎮守府將軍ちんじゆふたり常ちひ二男公修こうしゆ又

曰代相傳乃押領使よたひさうでんし下野しもつけ椽せうを兼かねたり後のちふは是

由鎮守府將軍ちんじゆふに任まかせ公修こうしゆ乃二男兼光かねみつとあり下野

國寒川郡さむかひのくに小山郷こやまのちやうに住すみ是これ小山氏こやまのうぢ乃始はじめあり兼光かねみつ又代

乃孫政光そんせいこう累代ついでの職つかいを罷つかせ勢國中せちくちゆうふ及おより上あり了しまり鎌倉

右幕下うまくだ頼朝よりとも乃并勸よびすす他たふ異ことあり一ひとか政光せいこう乃子息朝

政せい家け宗政そうせい長派ちやうはい朝光ちゆうこう結城むすきとありそんじやう敏昌みんちやうとありみんちやう國東

無雙むそうの著姓しやくせいたり豊澤の女藤成とあり下野守とあり當國たうこくふ下向げかうせしよ里應仁りおに乃小山成

長ちやうふ及おより廿六代じふろくだい六む那頃氏なごんぢ其その下野しもつけ守しゆ通家長とうけちやう元げん乃

頃住ごんぢり當國たうこくふ下向げかうし那頃なごん丈夫ぢゆうぶ乃女むすめを娶めとり里男子りなんぢを生うま

去さむ其その男子なんぢ生長しやうちやうり外ぐわい祖そ父ふ乃讓ゆづり文ぶん那頃野なごんぢを領りやうり資

房ふらうと云いふ一説ひとしゆいふ通家とうけ乃子貞信ぢゆんしん天治二年てんぢにに年十二月ねんじふにげつ那頃野なごんぢを

疑うたがひ通家とうけ乃十男じゆなんふ數かずり十郎じゆらうと称なづき資房すけふらうより里應仁りおに乃

小こ室むろり廿代じふだいに百ひやく是これ那頃なごん一流いちりゆう乃元祖げんそたり宇都宮うつのみや氏ぢハ

下野しもつけ一宮いちみや宇都宮うつのみや乃座主ざす宗圓そうえんふ起おこり宇都宮うつのみや乃座主ざすと

ハ宇都宮うつのみや大明神たいめいじん乃別當べつたうを云いふ天台宗たいたいしゆうふり比叡ひえいふ乃別

院あり社領豊饒ありと云ふ領所あり檢校別當の當
 專當の口職を置ありと云ふ門並あり雲林院元慶寺と
 同くは職盲人あり今ハ秋を造と云古宗圓乃子
 宗綱初ハ叔父相摸守兼仲乃子とあり後ハ實父の
 許ハ在る座主ト即と秋を其子朝綱宇都宮の檢校と
 秋を社領乃檢校た造ハあり武者所ハ徵也元衛門尉
 小補せらる後ハ位下ハ叙を依り子息成綱兵衛小補
 せらる尉ハ陞りまて元衛門尉ハ遷りハ位了叙して
 小本貫を改めらるる及も以檢校を相承りつては
 下野芳賀郡筑前鞍手郡以下ハ一万九千四十餘町乃
 田を領也今乃ハ限あり五十是宇都宮乃組たり其被
 管ハ紀清兩黨あり紀黨ハ益子出雲守貞正乃祖朝氏
 小起里清黨ハ芳賀元兵衛尉高名乃先祖朝有よしと
 二家共了宇都宮明神乃俗別當たり別當ハ座主檢校
 乃被管あり後者ハあり今ハ大社乃官司社人
 乃主従ありぬハ准
 へ知小田氏乃組知家ハ宇都宮宗綱乃二男あり下野
 國河内郡八田今谷地ハ住せりハ八田乃四郎と云
 是ハ宗綱をりハ八田ハ住りけりハ八田乃三郎と云

其子かれハ田郎と呼るニ實ハ下野守義朝乃子トカ
 也義朝乃下野守トシテ左國乃程宗綱乃女ニ嫁シテ
 産せし子かれ共平治乃乱ニ世乃閉を恐るニ母方
 乃祖父子トおせしニ後入常陸乃國筑波郡小田庄
 乃地頭トおせハ小田ト改称シテ 後白河法皇乃仁
 洞乃武者乃冬仕シ右馬允ニ任シ筑前守トあり家
 を起せしニ大掾佐竹乃両家ハ下ニ説ヘテ抑六ノハ
 大將ト云名ハ持氏郷ノ定ラセシ也ト大掾の家記ハ
 見えし

小山 藤原氏

室德二年正月 家督



小山下野守成長

室

持法寺

大織冠鎌足四代 河邊左大臣魚名公五代	秀郷 田原藤太 下野大掾 鎮守府將軍	千常 下野大掾 鎮守府將軍	公修 内舍人 下野大掾 鎮守府將軍	兼光 淵名大夫 下野大掾	賴行 下野大掾 鎮守府將軍	行尊 大田大夫 下野大掾	行政 大田大夫 下野大掾
-----------------------	--------------------------	---------------------	-------------------------	-----------------	---------------------	-----------------	-----------------

下野 安蘇 都賀 寒川 芳賀

郡乃内ニ千町ニ秀郷朝長ヨリ
 尔後相傳乃領地ト云其獲稻百
 又十萬東以直錢九萬貫文以米
 七万又千石今量七万
 二千七百二十
 二石七斗八升

行光 大田四郎

政光 小山四郎 下野大掾

行廣 大川戸三郎

行義 下川邊庄司

朝政 下野守

宗政 中沼五郎

朝光 結城七郎

長朝 下野守 左衛門尉

政村 藥師寺三郎

長村 四郎 出羽守

長政 下妻修理亮

時朝 修理大夫

時長 左衛門尉 建治二五卒世一

宗長 左衛門尉

貞朝 下野守

秀朝 下野守 建武二七十三 戦死于武列府中

朝氏 下野守

氏政 左衛門佐

米三万四千八百四十八石八升

余四百八十八万六千 小山家領三百七十餘

米三千六百二十六石六斗三升

七合八勺 下野守護職折

京都館 室町西二条乃北

鎌倉館 塔乃辻 今妙隆寺乃北の田なり

辰城 下野都賀郡小山 鎌倉より二十四里

家老 野本藏人休長泰

下川邊四郎政親

或云小山家都賀郡三百二十八村

十八萬千八百三十七石を領せし

と今考ふ説乃如きハ小山義政

乃時不一其外寒川十二村八千

之拾六不安蘇芳賀二郡の田七百

町を領せしと云即小山三千餘騎

と称せし頃か且義政一乱乃後ハ

僅不後来の本領より其を安堵せ

去か也ハ云子町と云説不後結

義政

下野守

隆政

若丸 悪四郎

泰朝

下野守

滿泰

左衛門佐

持政

下野守

大中孝光

氏卿

小四郎

下野守

成長

下野守

政長

小四郎

結城

藤原氏

依藤太秀郷八代

小山下野權大介政光四男

朝光

結城上野介

朝廣

結城大藏權輔

廣綱

結城上野介 中務大輔

祐廣

結城弥七左衛門尉

時廣

結城七郎左衛門尉

貞廣

結城左衛門尉

朝祐

結城左衛門尉

城令戰頭注文小山下小四郎氏卿
分捕頭五と見也軍賊ハ千餘騎と
見也即六万貫の役あり

宣徳元年 生實氏朝弟山川共部
少輔三男

寛正三年兄成朝早世依家督

結城左衛門佐氏廣

文明十三廿九年卒卅一葬



下総

結城三千町 猿島豊田三千町

以獲稻二百萬束

以直錢十八萬貫 文以米十八

万石今量十石万石子石百

六十石石中許と知へ

米六万九千九十六石一斗一升
二合八勺 旧斗入十七万二千石
七百石十俵余也

光義

結城三郎 駿河守

直朝

結城左衛門尉

康永三三討死十九

直光

為兄子

直光

結城上野介 法名聖朝

應永二正十七卒六十七

基光

結城暉正少卿

滿廣

結城中務大輔

氏朝

結城中務大輔

嘉吉元四十六自殺四十四

持朝

結城七郎

同父自殺廿二

成朝

結城中務大輔

寛正三十三廿九卒廿四

氏廣

結城左衛門尉

乘国寺日峯宗光

政朝

結城左衛門督

政勝

結城三郎左衛門尉

晴朝

結城左衛門督

城家領

米七子二百七十二石二斗七升

又合下總守護職料

鎌倉館

二階堂村乃内

居城

下總結城郡結城 鎌倉より三十二里

家老

水谷伊勢守

築 修理亮

同 將監

金子彦次郎

結城家乃兵賊二千貫を以て一備

とあり二萬貫より十備と定め

三十備と以其兵賊乃分割ハ侍大

將一人二百貫 隊長二人百貫 先鋒十人

三百貫 旗差二人使番二人武者奉行

一人足輕長五人あり足輕ハ一人ハ二十人の定又人ハ百

人足輕一人ハ三貫宛 旗差ハ足輕廿人 二貫ハ使番ハ足輕

又十人百貫 武者奉行ハ足輕三十人 六十貫ハ兵士十人 廿貫ハ

甲隊と云兵士四十人 十貫ハ乙隊と云陣屋以下の用

百貫文總二千貫文なり是結城乃各賦割と云上總の
武田了傳より終る山本道忠及以甲陽の武田家より彼
及せしなり

結城 藤原氏

結城上野介朝光三男
結城大藏少輔朝廣四男

祐廣 結城弥七郎 左衛門尉

宗廣 結城上野介
建武四九年卒于河濃津

親朝 結城修理大夫

親光 太田七郎左衛門尉
建武三正十一討死

顯朝 結城大膳大夫

朝常 結城左兵衛尉

朝胤 結城讚岐守



室德元年四月 家督

白川結城彈正少弼政朝

室 芦名

陸奥 白川 菊多二郡田又千七百

二十餘町乃獲稻二百八十六万

八千束 以直錢十七万九千九百貫

以米十石二万二千二百

九百石又斗六升余
米六万石九百八十七石二斗

朝治

結城讚岐守

光胤

結城讚岐守

憲朝

結城讚岐守

宗廣

結城讚岐守

政胤

結城越後守

尚豊

結城近江介

顯朝

結城弥七郎
永正七品其討死

政常

結城左衛門佐

滿政

結城左近將監

朝親

結城三河守

直親

結城下野守

直常

結城三河守

朝修

結城修理大夫
永正七二七自殺

滿朝

結城左衛尉

氏朝

結城彈正少弼

廣朝

結城常陸介

直廣

結城播磨守

兼廣

結城常陸介

六升二合余

四斗八十六万四千
九百六十八俵余

結城家領

米六千九百四十六石余陸奥守

護職祈

鎌倉館

尾城陸奥白川郡白川

鎌倉より
廿十里之丁

家老

中津川之河守

川曲宮内大輔元隆

猪苗代刑部少輔兼資

川田左兵衛尉祐後

須賀川兵部大輔包一

白川ハ文治年中右幕下頼朝卿陸奥乃泰衡を攻む人時結城朝光從ひく金剛秀綱を斬り阿事賀志ハを破り一勲功乃賞入拜領せしむ然不嘉縁中僧公曉と云者白河小亂を企て志らば朝光乃一男朝廣浅利知義と共に討て乞を平け

頭廣 結城常陸介

直朝 結城修理大夫

政朝 結城彈正母弼

頭賴 結城左兵衛佐

資永 那須太郎
為資親養子

義綱 結城左兵衛佐

義親 白河關七郎

中治 藤原氏

小山政光二男

宗政 中治五郎 淡路守

時宗 淡路守

宗貞 孫四郎

宗泰 皆川又四郎

宗綱 四郎左衛門尉
續拾遺作者

宗秀 淡路守
新後拾作者

秀行 淡路守

て後日男祐廣を爰不置_る鎮撫夫
らしめしよ里累代_た此處_{このところ}に住し彈
正少弼氏朝_{ちか}に至_{いた}る猶大か里遂_{つひ}
近鄰_{きんりん}を并兼_{ひい}し白川菊多_{しらかわきくた}二郡を
全領_{ぜんりやう}まると云 政朝乃事蹟_{ことわざ}及び其後
乃始末_{しはつまつ}ハ兵家紀_{へいけあき}開_{ひら}け
詳_{くわ}し



中治又四郎宗常

下野都賀郡中治庄二子之百餘町

上野邑樂郡青柳郷田七百餘町

武藏_{ぶさう}埼玉郡西庄田八百餘町 淡路_{あわじ}三

原郡大野木小野木郷二百八十
餘町日國_{ひくに}田合_あ之子七百八十町

宗于 駿河守

秀直 淡路守

宗村 淡路八郎

宗俊 又四郎淡路守

秀俊 又四郎

宗則 又四郎

宗常 又四郎
文明三二廿四自害

那須 藤原氏

御堂関白道長公孫
上野介遠家男

貞信 那須郡大領
天治三王月下向那須野

資通 須藤太郎

資滿 須藤太郎 實首藤
義通子以白字為紋

資清 下野守

資房 須藤三郎

宗資 武者所報

資隆 那須太郎

餘乃收納米今量田万三千百八
十石不七升餘 四斗入十石七石九
百六十二俵余
不當不 守護料ハ別不四千八百
石十石不七斗九升六合
八勺餘田園乃
守護職ハ出以

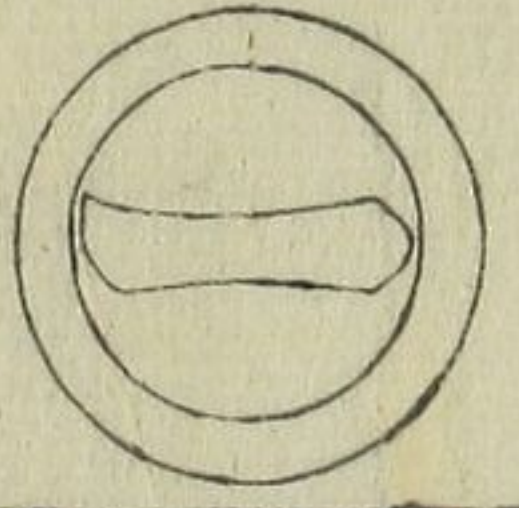
鎌倉館 塔乃辻

居城 下野都賀郡中沼 鎌倉より
二十石里

家老 藤付大膳亮

立野三郎二郎

永享四年 生



那須越後守資持

明應七年五月六日
卒六十八歳

下野 那須郡下之庄田二千百八十

町餘乃獲縮百七萬石子束 錢云直
万石千五百貫文以米八万石
七百石十石今量八万二千石
八石一斗二升
七合八勺方り
米二萬石子七百石十九石四斗

宗隆

那須餘一

次貞之

初福原太郎之隆為九子改名

賴資

以巴加一字為紋
實宇都宮氏資之婿

光資

肥前守

資長

伊王野三郎左衛門尉

朝資

荏原三郎

廣資

味岡四郎

資家

稻澤五郎

資氏

河田六郎

資親

澤村七郎

女

小栗大関氏妻

資村

太郎 肥前守

資久

餘二
九列那須祖

資家

加賀守

資忠

安藝守

資旨

太郎 遠江守

資藤

五郎 東寺合戰討死

資方

芦野三郎

四斗之勺一撮余
四百八十六万子
八百八十八俵
余那須家領

米二子八百九十六石二斗八升
六合八勺余下野守護職新

録倉部

居城下野那須郡烏山 録倉より 四十八里

家老

奥野弥九衛門義清 堅田城より

蒔田右兵衛尉

池田源五郎政信

那須家軍賊千餘騎と云或ハ千二百餘騎と云其上下庄を合せ領し
後ハ千八百又ハ千七百不及
然と云ハ十萬二千貫文不准と田
之千二百町不此とへ
今四斗八
八十六俵 今那須百九拾九村高八
余不有
万二百八十餘石と刊本下野圖不
云不校不也付万七子不餘也
農功乃懐ぬ処あふり柳亦千七百

資世 越後守 刑部中輔

資國 金九三郎

資氏 太即 刑部大輔

資之 越後守 上那須 福原城主

資重 澤村五郎 下那須 烏山城主

資朝 刑部少輔

女 織城白川義永室

女 幸山御前

騎之云乃矯誣かふ

氏資 太即 大膳大夫 母上杉禪秀女

資持 越後守

資實 伊豫守

資房 太即 大膳大夫

政資 壹岐守

高資 太即

明資 大膳大夫

資威 上川井出雲守

資親 大膳大夫 實氏資子

女 資永妻 永正十八三自殺

資永 太即 實白川義永子 永正十八三自殺

資久 山田三郎 資親實子 永正十八三為資永害

宇都宮 藤原氏

栗田關白道兼公男 栗田左衛門督兼隆男

兼房 正四位下 中宮亮

宗圓 宇都宮座主 長久四生 初石山寺座主

宗綱 八田權守 安房守

朝綱 宇都宮三郎

朝重 宇都宮三郎

成綱 建久三三廿四卒

賴綱 三郎 下野守 實信房 正元、十一、十二、寂八十



宇都宮右馬頭正綱

下野 芳賀郡 河内郡 塩屋郡 乃

内田三ノ九百町 本領万九千

綱討死乃 獲稻百九十八萬石

後減少 歲十一万七千貫文 以米九万七千石 以石合 七升又合

應仁此鑑續編二

泰綱 下野守 尾張守

景綱 下野守

貞綱 從五位下 備前守

公綱 四郎 左馬權頭

泰宗 守都官武茂五郎

時景 美濃守

泰藤 美濃將監 大久保氏祖

氏綱 下野守 從五位下

基綱 四郎 下野守

女 行方小太郎勝幹妻

滿綱 弥四郎

女 養子持綱室

持綱 右馬頭肥前守 應永卅八九自害廿

女 小田尊朝室

芋綱 下野守

明綱 兵部少輔

正綱 右馬頭 實芋綱子 文明九九朔卅一卒

成綱 右馬頭 永正十三十六卒甲八

米田萬石千九百十二石四斗七

升三合餘 四斗八十一石二斗

都官家料 二百八十一俵余

米田千七百二十七石六斗二升

八合餘 下野守護職料

鎌倉館 米町乃北

居城 下野河内郡守都官 鎌倉より 又十里

支城 同都賀郡主生 守都官より 二里半

同 鹿沼 同 二里

家老 笠間民部少輔一隆

岡松官内丞綱高

戸祭佐渡守高貞

中里神大丈高詮

守都官入紀清而黨二子餘騎と云
里益子芳賀共入千騎乃兵を領せ
故に是を一黨と云黨とハ家數ハ
百を云一家ハ正丁八人と定め其
内二人を擢ぐ兵士千人を得ハ

忠綱 下野守

興綱 弥四郎

尚綱 右馬頭
喜連川合戦討死

千人のハ大毅一人あり依る是を
一毅と云按の字を用ゆるハ誤也

小田 清和源氏

清和天皇八代
贈内大臣義朝公男

知家 八田左衛門尉從五位下
八田権守宗綱為子

知重 常陸介 紀伊守
住常陸筑波郡小田依為氏

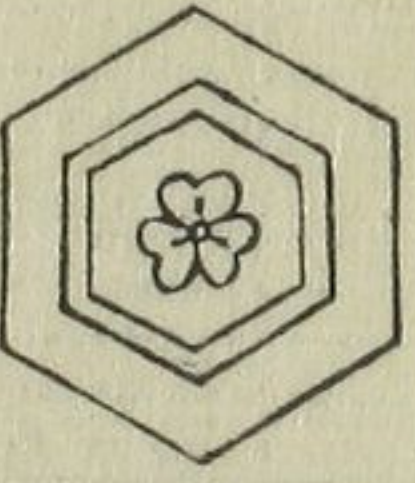
泰知 小田太郎 左衛門尉

時知 小田常陸介

宗知 小田筑後守

道知 小田筑前守

貞宗 小田常陸介 左衛門尉



小田讚岐守知久
室佐竹小瀬常陸介伊義女

常陸 筑波 眞壁二郡田六千口十所
餘ハ獲縮之百二萬束 以直錢十
以直錢十
而貫文ハ米千石萬千石今量十
口万六千口百之十八不二月七
升ふ
當ふ
米六万九千六百六十六石七斗

朝久 小田上野介

高知 小田民部大輔
預藤房卿

知村 田宮右近少将

知繁 成井又三郎

知秀 小高孫三郎

女 万里小路藤房御妾
君島太郎知方母

氏知 小田常陸太郎
従四位下少将

親知 小野中三

浄憧 正宗寺法印

慧海 勝嚴院法務

治知 小田常陸介

治親 大島三郎

持家 小田讚岐守

知常 小高石見守
為知秀子

知興 小高又三郎

知久 小田讚岐守

久助 小田兵衛三郎

久兼 成井少輔三郎

又升之令二勺又撮 旧斗入十七万
三千八百九十
一俵二斗 小田家領
又升余

米七斗二斗廿一石七斗六升三合
勺常陸守護職料

鎌倉館

厚城 常陸筑波郡小田 鎌倉より
二十里

家老

小田家軍賦七千餘人とも又の子
旧百騎と云 小田又菴人
其法田
數配乃書
地又段小馬一疋乃秣を當へしと
あ里十口百騎ハ七百町乃地了准
走乗替二疋ゆくとあし二千百町
乃役と知建た里軍役ハ正丁又人
ふ二人を課すと云ハ七千餘人ハ
正丁一万七千又百人乃内よ里出
ハ一万七千又百人乃正丁田六

成治 大郎常陸介讚岐守

知幹 多久四郎

知中 康島太郎

治孝 治部大輔

孝由 初頭家

政治 讚岐守

氏治

大椽 桓武平氏

桓武天皇四代 上總介高望男

良望 常陸大椽 攻國香

貞盛 鎮守府將軍

繁盛 常陸大椽

維幹 多氣平大夫

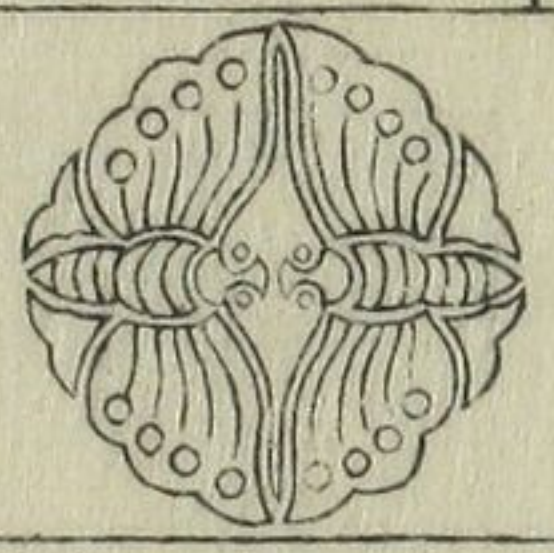
為幹 多氣大椽 母大中臣岡良女

繁幹 上總介

致幹 多氣權守 下妻東條真壁等祖

千口十町を受ると云ハ一人乃耕
是処之段百口十口歩ふ當人
く地多し宜かふか小田家乃兵
戦ふ勇ふく又他ふ走る者也願
録

室德二年正月家督



常陸大椽清幹

室江戸但馬守道勝女

常陸茨城郡内田二千七百七十

七町乃獲縮百三十八万八千八

百束 以直錢八万三千三百十貫
石今量六万七千三百廿六石二

斗八升二合二勺又撮余八當

米三万九千九百七十九石九斗八

清幹 吉田大掾

政幹 豊田荒四郎

重義 小栗五郎

盛幹 吉田太郎

忠幹 行方三郎

成幹 鹿島三郎

女 源義業妻佐竹昌義母

資幹 常陸大掾 代致幹孫 多氣義幹為大掾

朝幹 常陸大掾

教幹 常陸大掾

光幹 常陸大掾

時幹 常陸大掾

盛幹 常陸大掾

高幹 常陸大掾 南朝方 初國繁 法名淨永

詮幹 常陸大掾 初築府中城

滿幹 常陸大掾

頼幹 常陸大掾

清幹 常陸大掾

升口合余 斗入七万九千九百
合 斗十九俵二斗八升
余 大掾家領

米三千二百六十六石二斗一升
合余常陸守護職料

鎌倉館 恒師谷 大掾乃井と云あへ
以邊と知へき

京都館 繁野

尾城 常陸茨城郡水戸 鎌倉より
に十九豆

支城 同 新治郡府中

行方大炊助幹忠

吉田内藏助常幹

大掾乃兵千二百騎と云ふ依り
是ハ七万八千貫乃兵賦を里然ら
は又千三百十貫ハ大掾家務の用
と聞也但大掾ハ常陸國司乃中不
可判官なり 常陸大守を長官と一
を判官と一次に自典 然公麻裕
十萬束を分り不長官二人 中
官二人 判官二人 大掾正推二
人少掾同

高幹 常陸大掾

常幹 常陸大掾

慶幹 常陸大掾

貞國 常陸大掾

淨幹 常陸大掾
天正十八歲時年六

典正二人 大目正推二人 史生三人

博士一人 醫師一人 九十七人

然し長官ハ六分 二人ハ次官

ハ七分 二人ハ判官ハ二分 二人ハ

典正ハ二分 二人ハ史生以下一分

二人ハ主簿ハ二分 二人ハ

十萬束の米二万八千石を以て十分ハ五百八十

石五斗五升又合余あり 今量乃六百廿八石七斗六升又合七斗余

今今量千六百十六石二斗六升七合余 此斗ハ千斗當分

是平良望乃常陸大掾大目一時乃禄あり良望ハ承平七

年十一月十二日將門と戦く死を當時國司交替の法式尚

大實延曆乃舊規ハ派襲せらる也ハ良望の父高望もて

小姓を賜ふ後といふと其身五世乃皇親を出て漫不京師

乃戶籍を除く常陸の國ハ貫を以て承平を然るハ良望

常陸大掾大目問多氣乃郡の主帳某字大目と云者の女を

納く男子を産しむ是繁盛あり今父ハ他國ハ在る母関

國ハあふむ母不從く見住せしむと云里 内國ハ太宰府

石脊常陸等邊要 繁盛依る以國ハ貫一維幹を生しむ母ハ

多氣右郎某乃女我母の姪おと八敏盛と八後弟とちん
 維幹祖父良望の職を襲く常陸大掾不任一母方祖父多
 氣の大吏の家不住一けさハ多氣大掾と称す但是ハ所謂
 大掾ヲ除月不唯后大長乃年給後ハ位下一人掾一人と云
 をも不し一實ハ國務不預不あ一官錢を唯后大長乃家
 不納く掾乃補任を給とさハ國中不於く國司乃列不唯と
 と云とも其ニ今處各乃公麻八年給を得一唯后大長乃家
 不收む是中世の弊風と云へ一是より志く國郡乃公民の
 権貴の家乃後とあふ者を家人と云家隸と云不至る維幹

上京一滞留乃間不越前守大中長岡良乃女不暱一成
 ありく具一常陸不下向一男為幹二男為賢女子二人
 を儲た又岡良ハ祭主大中臣輔親乃婿不伊勢大輔乃妻
 たり為賢別一家を起一守伊佐下妻真壁等乃祖たり為
 幹乃孫致幹ハ陸奥守頼義朝臣を婿と一女子あり此女子
 清原真衡乃養子海東小太郎成衡乃妻とあ致幹乃孫多
 氣太郎義幹建久に年富士野狩乃時八田知家乃説言不依
 譜代相傳乃大掾職を停めらさ岡部泰家乃許不囚とさ大
 連ハ為幹ハ代乃孫資幹ハさつ大掾とあ致又資幹乃叔

母ハ進士判官義業ノ妻トシテ佐竹冠者昌義ノ母タラシク又
 行方忠幹鹿島成幹ノ叔父オシ里村田大郎幹清石
 河次郎家幹ハ弟オシ谷田島田川股平戸公奉石崎大野大
 泉前野町田大戸ハ任オシ里物方ヤヤク國中ハ滋蔓里斯ク
 相承志クハ代詮幹オシ里小田佐竹小ハ結城長沼那須宇
 都宮ト共ニ關東ハ大家ト称セラズ詮幹後ハ府中ハ城ヲ
 築クオシ老ト是ヨリ大椽乃家オシ二城オシ

佐竹 清和源氏

清和天皇六代
 伊豫守頼義三男

義光 新羅三郎 刑部丞

義業 刑部大郎 母甲斐守知實女

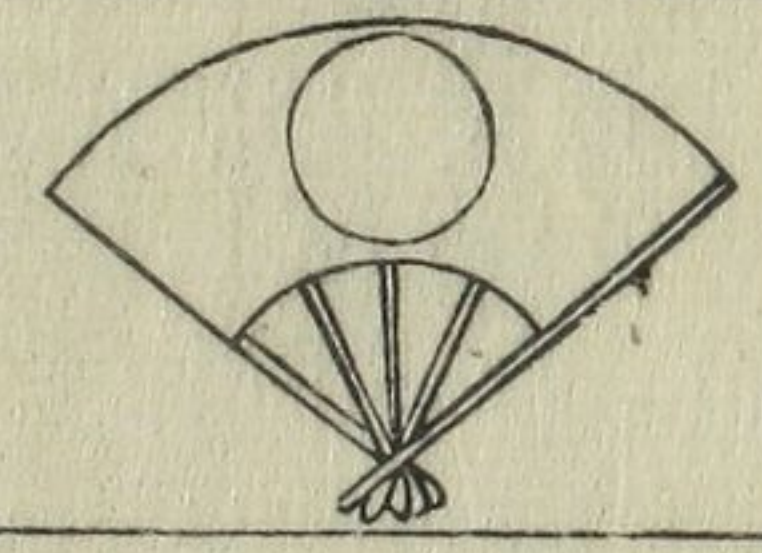
昌義 佐竹冠者 母大椽清幹女

隆義 大田四郎 常陸介

義季 佐竹藏人 佳城列革島

秀義 佐竹別當

義繁 佐竹別當 常陸介 建長四廿五卒六十七



佐竹右京大夫義人

室養父左馬頭義盛女

明德元年庚午 生 詔 係 九
 應永十四年 家督 十八歳

常陸 久慈 那珂 多賀 茨城 日

郡田一萬之五九百町乃獲稻六
 百九十八萬東 以直錢日十一万
 十口萬七子又百石今量之十二
 万七子二百九十七石之斗七升
 合

義茂 南酒出六郎 佐佐竹祖

義清 稻木九郎

長義 常陸三郎

義直 額田三郎

義胤 常陸孫三郎

行義 常陸三郎

貞義 上總介 文和元九卒六十六

師義 山之入刑部大夫

義篤 右馬権頭 刑部大輔 康安二正十一卒五十二

義春 小場常陸介

義信 左近大夫將監 康應元二正四卒四十四

義朝 小場大炊介

宗義 石塚越後守

義孝 大山三郎

義貫 藤田四郎

義盛 左馬頭 應永五九卒四十三

女 義人妻

義人 右京大夫 實上杉憲定男 應仁元正四卒六十八

米十又万八千四百六十六石二

斗八升三合餘 四斗八三十八万 八千六百六十

又依 佐竹家領

米一万六千三百六十四石八斗

六升八合餘 常陸守護職料

京都館 三条堀川

鎌倉館 名越佐竹屋敷

居城 常陸久慈郡佐竹 鎌倉より 以十一里

支城 同 太田 佐竹より 五里

同 金砂 佐竹より 三里

同 那珂郡長倉 佐竹より 又里

同 比藤 佐竹より 四里

同 茨城郡北酒出 佐竹より 一里半

同 額田 佐竹より 一里半

家老 戸村常陸介盛幹

東 左近將監政義

小瀬掃部助伊義

石塚土佐守義永

義倭

戸村常陸介

義俊

伊豫守

義成

小野右衛門佐

義治

左衛門佐

義郷

刑部大輔 上総介

祐義

刑部少輔

義佐

依上三郎

宗義

佐竹家乃軍賊七千騎と云又ハ又

千餘騎と云七千騎ハ十二萬貫

文の賦カシメテ餘騎ハ二十萬貫

文乃賦と知ヘテ但常陸十一郡ハ

軍團二處あり佐竹ハ奥六郡以別

當大里兵士二十之隊一千六百ハ

十人カバシテ二十三隊長即のち

所謂二十三館と云去也也と聞也

鎌倉評定衆

鎌倉先代乃時評定衆十八

人上首ハ人を五番ト引付頭ト云次ハ引付九十八

人あり政所執事ト越訴奉行ハ人ハ依テ是を兼去ハ

評定衆引付衆を論ト以問注所執事ハ之善民ハ是

を兼等持院將軍家尊氏乃時ハ評定衆八人御荷用ハ

人と定メ執權乃上ハ列セシむ否と貞和ハ年乃記ハ

見テ之ハ關東ハ武藤那波善二階堂守都宮佐々木

等五六人ハ過ト是ハ上ハ故ハ八人を評定衆ト定

メ海老名本間等を御荷用トカサレハカカヘテ武後

ハ出羽不仕して大名不列一宇都宮ハ八大将乃班大
且然と云と評定乃座不出頭一機務を奉給と云
一ハ異あふあふ以

那波 大江氏

林六郎行房男
佐貫四郎大夫成綱子
那波太郎
住上野那波郡因為氏

弘澄 太郎 従木曾將軍宗
合戦討死

吉澄 二郎

宗澄 太郎

女 政廣妻

政廣 掃部助
實大江廣元三男

宗光 掃部助
弘澄討死宗澄無子以政
廣為養子配女因改大江

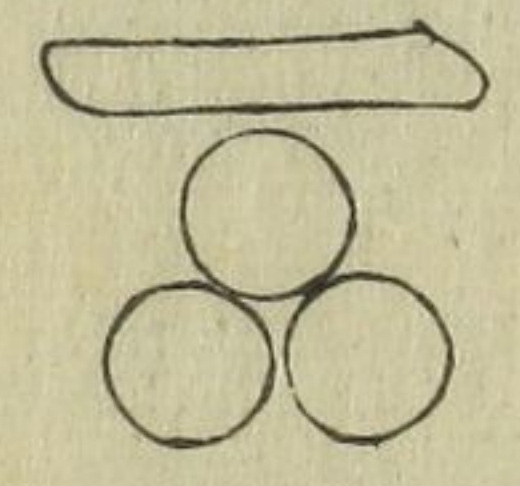
政茂 従五位上 左近將監
左衛門尉

宗元 左近大夫將監

宗長 掃部助

貞如 荒井三郎

宗家 刑部少輔



那波刑部少輔宗俊

大永元十廿討死
那波庄 泉龍寺

上野 那波郡五百六十餘町獲稻二

十八萬束 以直錢一万六千八百

今量一万二千六百十

十六石七斗八升半

米六石四斗八升九斗七升

八斗 四斗八升六斗 那波家領

米六百七十八石八斗三升九合

鎌倉 山内

上野那波郡那波 鎌倉より 二十九里

家老 秋元左近將監奉行

丸橋新右衛門尉茂綱

宗繼 太即内匠助 左京亮

勝宗 刑部少輔 結城合戰 有功 入道王泉

繁宗 大炊助 結城合戰有功

宗俊 小太郎 刑部少輔 駿河守

顯宗 駿河守

宗恭 無理介

吉岡民部少允

善

三善氏

三善清行八代孫

倫重 對馬守 問注所執事

倫長 對馬守 文永三十五卒 六古

倫經 壹岐守 弘安七十四卒

倫有 玄蕃允 元德三十八卒

康家 民部少輔 延元二十六卒

康長 壹岐守 應安年卒

康持 民部少輔 應永七十三卒



善 民部少輔 倫乘

上野

惣多郡田記百三十町 獲稻廿

一萬石千束 以直錢一萬二千九

百石十石今量一萬石百廿

石石二升七合又石石

米石子八百石十石石斗石升

又合 石石一萬二千石 善家領

持康

治部少輔

倫君

大澤左衛門佐

敏系里

横堀左衛門尉

倫氏

民部少輔

成親

大川三郎左衛門尉

兼親

水沼小四郎

倫乘

民部少輔

倫善

阿久澤右馬允

倫隣

又四郎

二階堂

藤原氏

三階堂紀伊守行盛長男

行泰

加賀守 民部丞

行佐

近江守

行重

肥前守

行元

筑前守

時元

下野掾 左衛門尉

行春

從五位下 左衛門尉
元德三五一年

行能

從五位下 民部少輔

米八万二千一石二斗八升一合

余上野守護職料

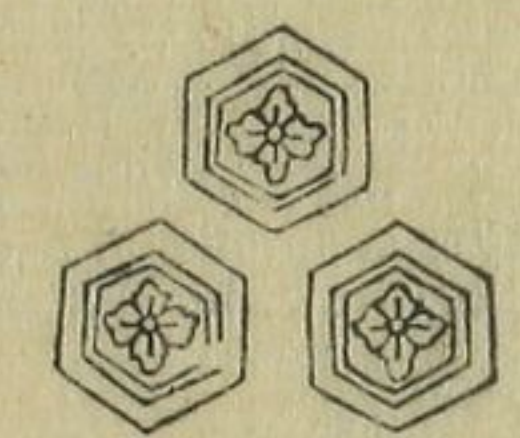
鎌倉館

小町

居城

上野勢多郡善 鎌倉より 四十一里

家老



二階堂左衛門尉政行

陸奥

楢葉 標葉二郡田二百町

下総

逆差郡田百卅町

下野

都賀

郡田百八十七町

上野

山田郡

田九十二町田園合田又百八十

町獲稻二十九萬束

以直錢一万七千四百貫

行高 筑前守

行遠 肥前守

行旨 玄蕃允
住上野山田郡

持行 下野守

政行 左衛門尉 從五位下

尚行 又三郎

佐々木

宇多源氏

宇多天皇四代
兵庫助成賴男

義經 兵部大輔 近江守

經房 佐々木庄下司

李定 式部丞

秀義 佐々木源三
近江佐々木祖

行定 万石五郎大夫

定道 佐々木宮神主 從五位下

定時 真野源三

女以米一万石又百石今量一
万石子六十一石六斗六升余

米六子六百七十九石二斗余

一万六子六百二階堂家領
九十八俵余

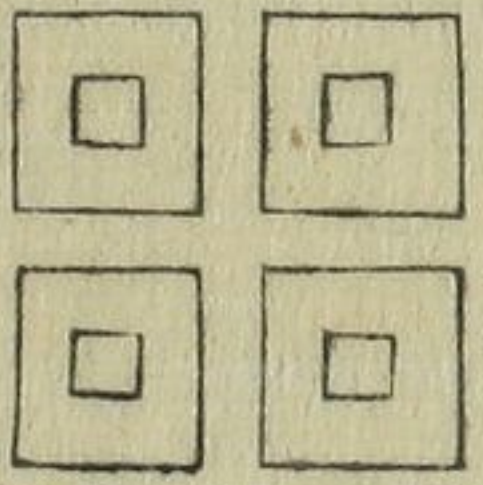
米七百之石八升余四國守護職

料

錦倉館 二階堂

居城 上野山田郡八公 錦倉より
二十七里

家老 里見上総守



佐々木近江守信久

伊豆田方郡田百八十町 相模大

住郡糟屋田百廿町 下総葛飾

郡田百四十町之國田百十町

獲稻二十万石余 以直錢一万

文以米一万二百又十石今量九
千九百四十石一斗四升一合余

信時 弥三郎

信定 六郎 實舟本六郎信光子

景信 右馬助

一景 又二郎

信舊 下野守

温信 左兵衛尉 永享十一年討死

信久 太郎三郎 近江守

温久 近江守

京都將軍家所領没考卷第四終

鎌倉 所領 後考

應仁武鑑續編 二冊

鎌倉各國十四列乃内乃上取佐竹結城小山寺都官千葉
三浦伊達由村最上小笠原村上諏方木曾武田南郡等の
各限より是を以て國司伊勢國司美濃池島津等の家々
に及ぶ事々是を記せり

列國 英雄 永々武鑑

四冊

大永元年義植將軍没列へ下向あり一後柳管をかく
天下乃英雄郡國の割據一々真直乃出るをまの甲
斐乃武田相摸乃北条武義上智不上取信列乃村上小
笠原駿河乃今川中園小尾子大内丸列乃少貳大友等

米口子七百廿一石以斗六升合
旧斗入一万子八 佐々木家領
百之俵三斗余
米口百九十七石二升余之國守護

職料

鎌倉館 名越的葉谷

居城 伊豆田方郡賀取 鎌倉より 二十三里

家老 鈴木九京亮

花咲屋新之助

乃如き是亦里そ乃領る地大々口列乃至十條列
 不及以小巾二三列より數十城に至るその磨下乃後
 傑林乃ことく森乃如く依く大永元年より永禄十三
 年不致く又十年の間乃大概を撮記するが故り永々と
 号し童蒙
 小示也

河領役
 分限考
 甲陽武鑑

二冊

武田家全國甲斐信濃飛騨美濃遠江駿河上野等散在乃
 河領役并小一旅諸侍給人等の分限及び軍役の次第を記
 せりと精細考し

河領役
 分限考
 小田原武鑑

二冊

江戸

日本橋通一丁目	須原屋茂兵衛
同 二丁目	山城屋佐兵衛
同所	小林新兵衛
横山町三丁目	和泉屋金右衛門
浅草茅町二丁目	須原屋伊 八
芝神明前	岡田屋嘉 七
横山町一丁目	出雲寺萬次郎
芝神明前	和泉屋市兵衛
下谷御成道	英 文 藏
日本橋北十軒店	鈴木喜右衛門

播磨屋勝五郎改

書林

